

調査の概要

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【実施日】

令和4年4月19日(火)

【対象学年】

小学校13校 義務教育学校1校 6年生児童 817名

中学校5校 義務教育学校1校 中学3年生(義9年生) 781名

【調査内容】

①教科に関する調査(小:国語・算数・理科 中:国語・数学・理科)

②質問紙調査(児童生徒に対する調査)

教科に関する調査 結果の概要

○ 小学校国語 設問数 14問

◇記述式の問題では、無解答率が低くなってきている。書くことへの抵抗感が徐々にへってきているのではと考える。

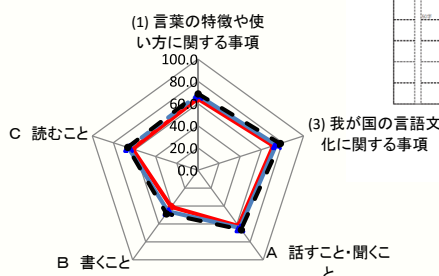
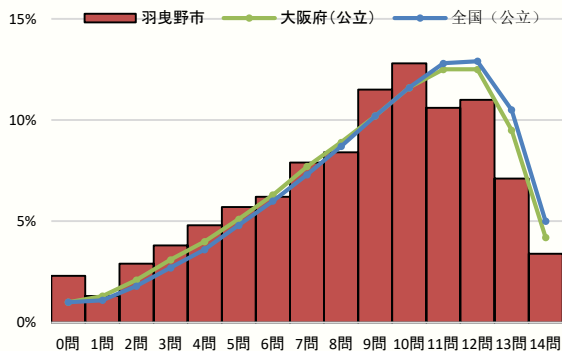
設問㉓・四の無解答率 (羽曳野市 2.6% 大阪府3.6% 全国3.0%)

◇必要なことを質問し、話し相手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえることができています。

(羽曳野市 81.5% 大阪府84.3% 全国84.7%)

◆複数の条件を満たして、「書くこと」について課題が残る。

(羽曳野市29.7% 大阪府35.8% 全国37.7%)



「書くこと」

「読むこと」

「話すこと・聞くこと」

「我が国の言語文化に関する事項」

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」

「書くこと」

「読むこと」

「話すこと・聞くこと」

「我が国の言語文化に関する事項」

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」

「書くこと」

「読むこと」

「話すこと・聞くこと」

「我が国の言語文化に関する事項」

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」

「書くこと」

「読むこと」

「話すこと・聞くこと」

「我が国の言語文化に関する事項」

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」

○小学校算数 設問数 16問

◇1050×4 についての計算をすることができている。

(羽曳野市92.2% 大阪府92.3% 全国92.4%)

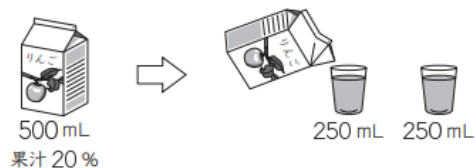
◇長方形の意味や性質などを理解している。(羽曳野市78.7% 大阪府81.7% 全国83.2%)

◆果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について、正しく理解ができていない。(羽曳野19.2% 大阪府21.3% 全国21.4%)

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

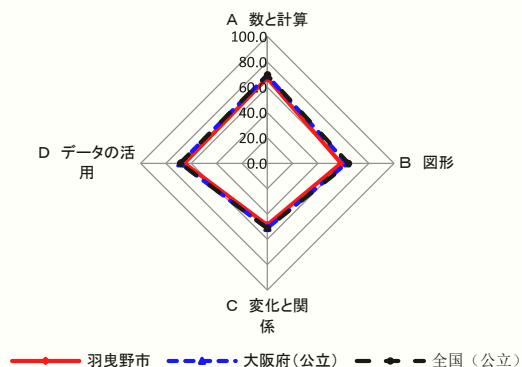
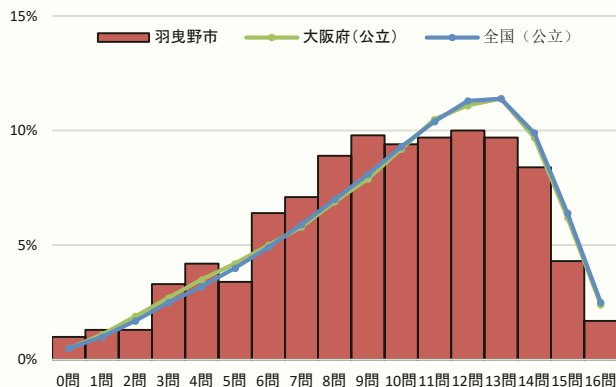


250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

上のアにあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

◆記述式の問題では、無回答率が全国・府平均と比べて高くなっている。



○小学校理科 設問 17問

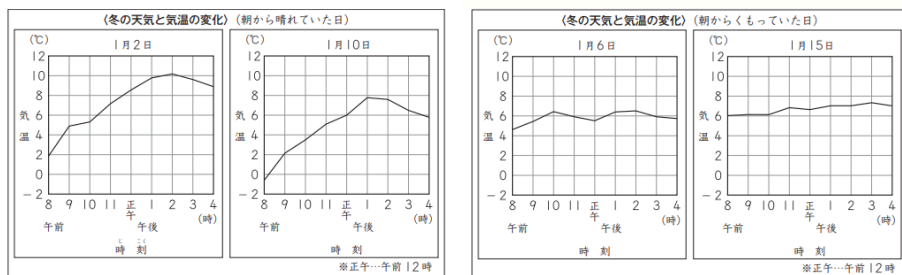
◇問題を解決するために必要な、正しい情報を見つけることができる。

(羽曳野91.6% 大阪府91.1% 全国92.9%)

◇冬の天気と気温の変化(下図)のグラフを読み取り、天気と気温の変化の関係性について正しく理解している

(羽曳野市77.8% 大阪府80.2% 全国82.3%)

よしこさんたちは、冬の天気と気温について調べ、天気によって、下のよう整理をしました。



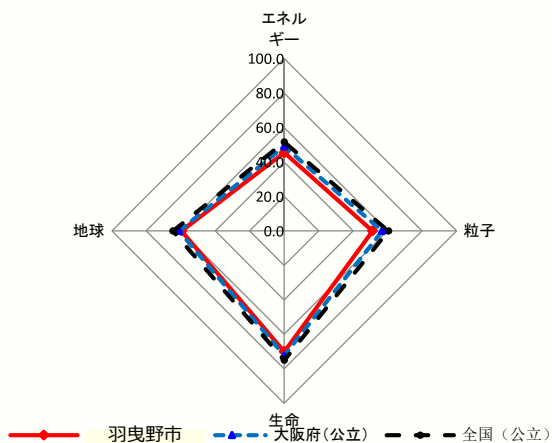
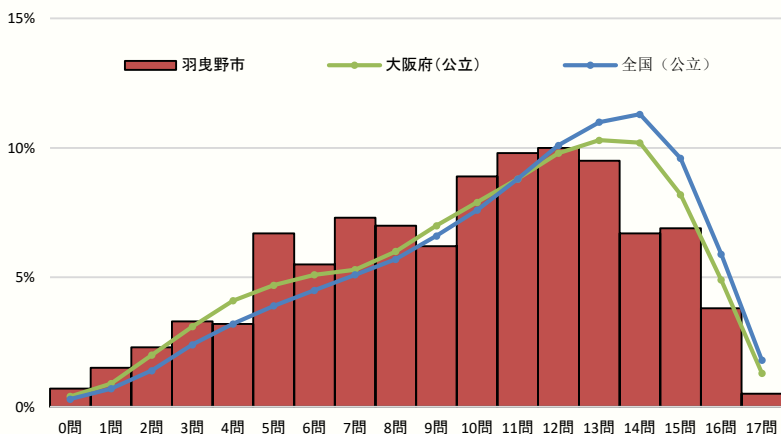
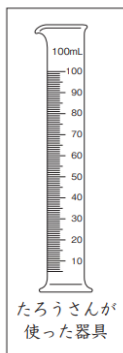
◆「エネルギー」を柱とする領域(光の性質)の正答率が低くなっている。

(羽曳野45.4% 大阪府49.0% 全国51.6%)

◆右の実験器具についての正しい扱い方については身についているが、その名称を理解できてない。

(羽曳野42.4% 大阪府64.1% 全校67.8%)

(無回答率 市16.8% 府10.8% 全国9.8%)



○ 中学校国語 設問数 14問

◇ 文脈に即して漢字(除く)を正しく書くことができています。

(羽曳野市 83.9% 大阪府79.7% 全国82.1%)

◇ 「途方に暮れる」のような事象や行為、心情を表す語句について理解できています。

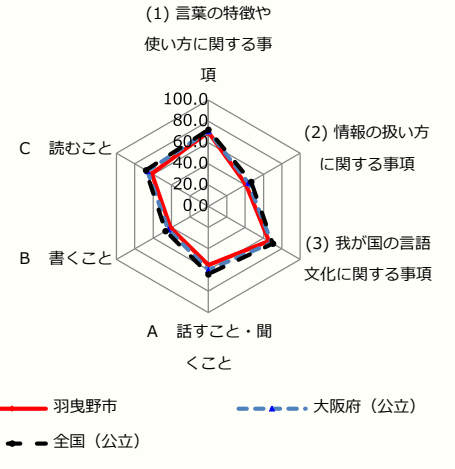
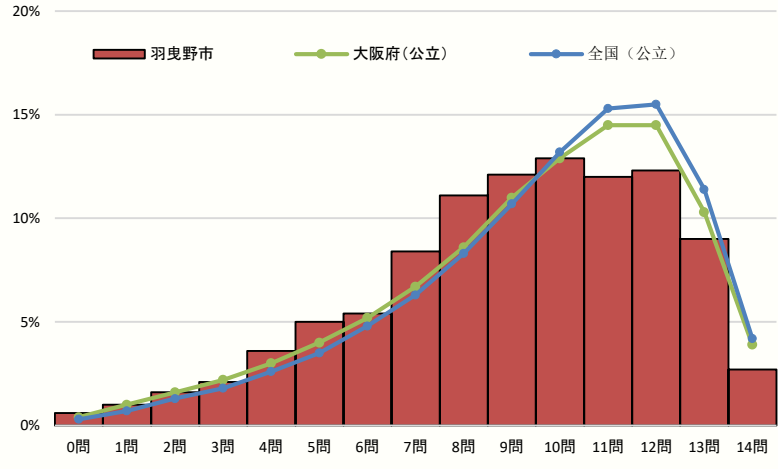
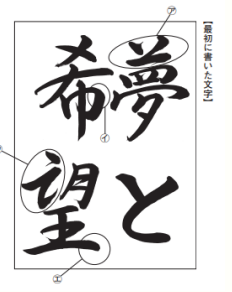
(羽曳野市84.2% 大阪府84.3% 全国84.0%)

◆ 行書の特徴を理解できていない。

(羽曳野市32.4% 大阪府37.0% 全国39.4%)

◆ 「書くこと」の問題では正答率が低い。

(羽曳野市40.8% 大阪府43.6% 全国46.5%)



○ 中学校数学 設問数 14問

◇ 簡単な連立方程式を解くことはできている。

(羽曳野市 73.1% 大阪府74.5% 全国74.5%)

◇ 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。

(羽曳野市 80.1% 大阪府81.5% 全国83.3%)

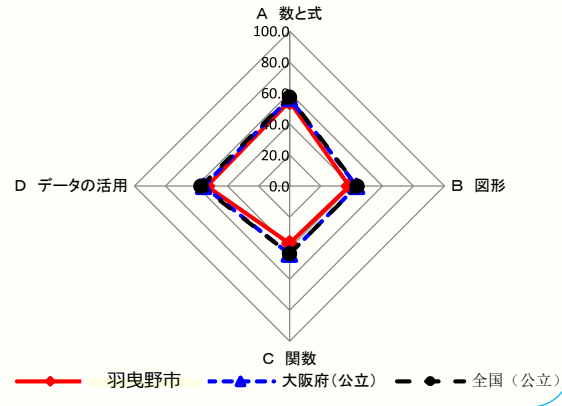
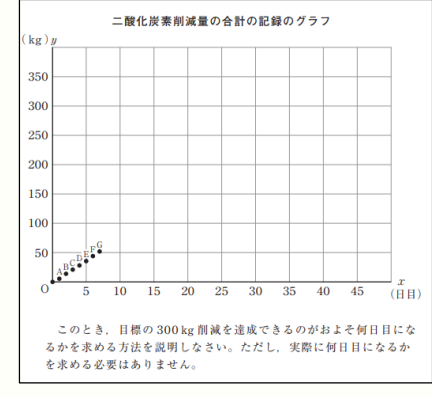
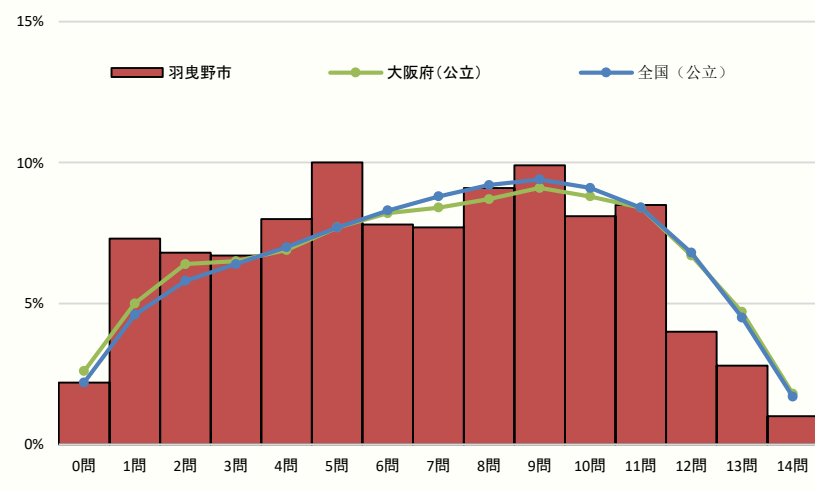
◆ 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を数学的に説明することが難しい。

(羽曳野市 28.7% 大阪府36.7% 全国38.4%)

◆ 記述式の問題では、正答率が低く、無回答率も高くなっている。

正答率 (羽曳野市29.3% 大阪府 35.4% 全国36.2%)

$$\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$$



- 中学校理科 設問数 21問
- ◇ 分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことはできている。
(羽曳野市77.6% 大阪府77.7% 全国80.1%)
- ◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできて
いる。
(羽曳野市73.9% 大阪府75.5% 全国78.5%)
- ◆液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象についての理解が低い。
(羽曳野市27.1% 大阪府34.0% 全国35.9%)
- ◆考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明
することが難しい。
(羽曳野市29.3% 大阪府37.5% 全国43.3%)

ノートの続きの一部

【新たな課題】

「磁気ばね」が縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の計画】

図3のように、磁石に加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させたときの「磁気ばね」が縮む長さを3回測定して平均をとり、グラフに表す。

図3

【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.5	1.0	1.5	2.0
縮む長さ(cm)	0	1.5	2.3	2.9	3.2

【考察】

.....

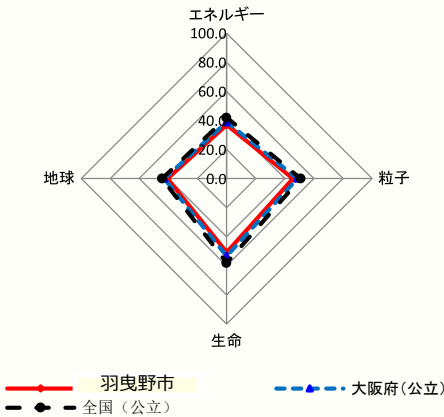
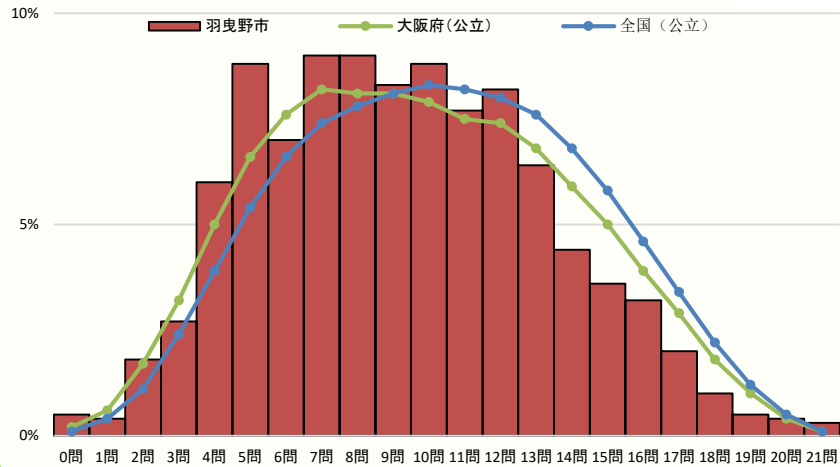
グループで個人の考察を検討している場面

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。

測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分进行参考にして書きなさい。



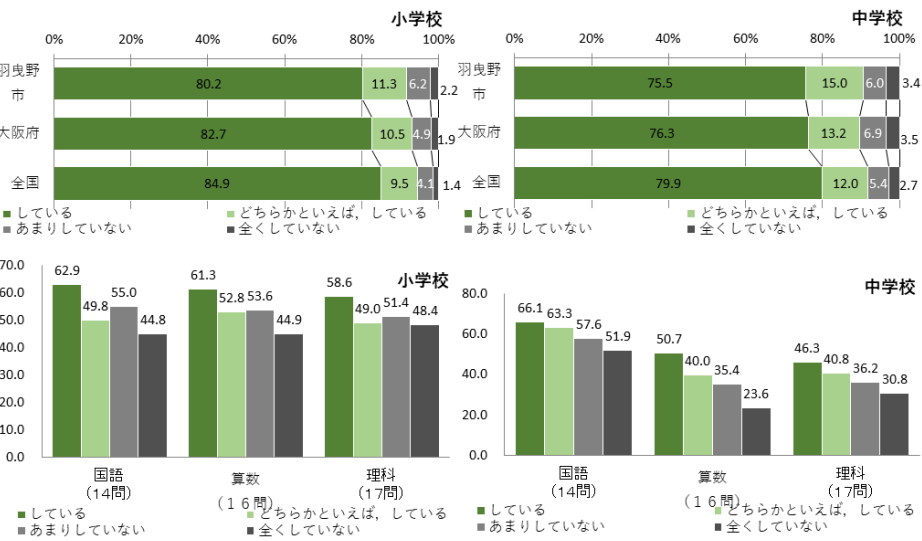
羽曳野市では、子どもたちが社会にはばたく「生きる力」を育む教育活動を推進しています。生活習慣を定着させ、学力向上に一層取り組んでいます。

学力向上については、平成28年4月に『羽曳野市学力向上スタンダード』を策定し、各学校はこれに基づいた取組みをすすめるなど、子どもたちの課題を克服するための取組みを続けることで、夢と希望にあふれた学校園の実現をめざします。



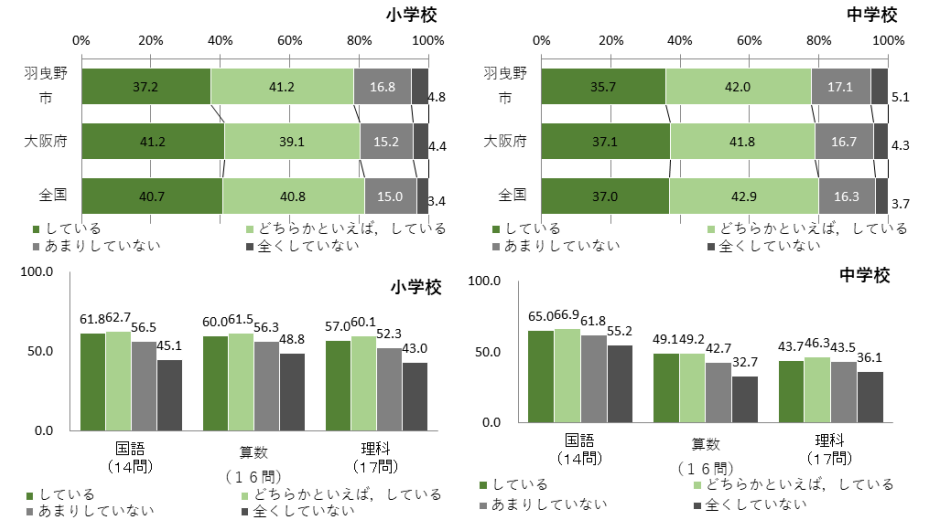
(1) 朝食を毎日食べていますか

朝食を毎日食べている児童生徒は全体の90%程度いる。全国・府平均よりやや下回る。
毎日朝食を食べている児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にある。



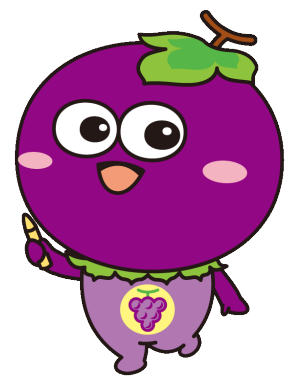
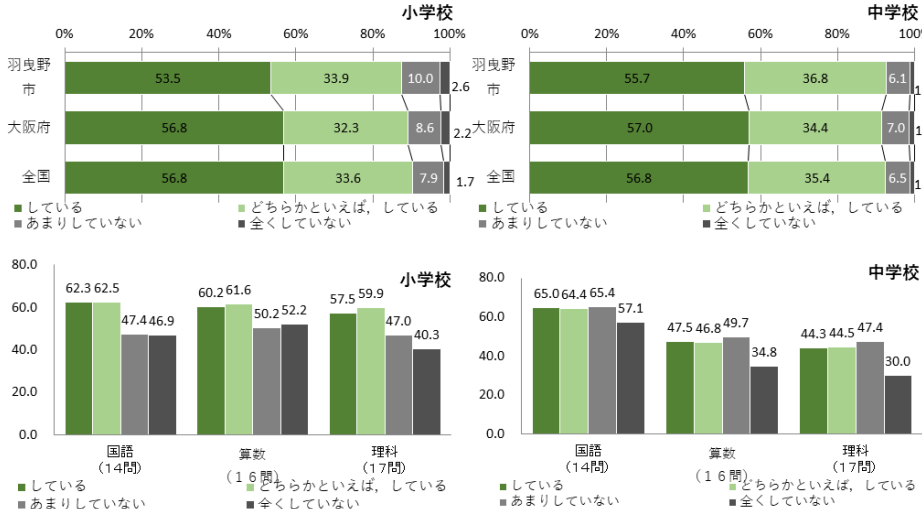
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

小中学校ともに、8割程度の子どもがだいたい毎日、同じくらいの時刻に寝ることができている。だいたい毎日同じぐらの時刻に寝ている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。



(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

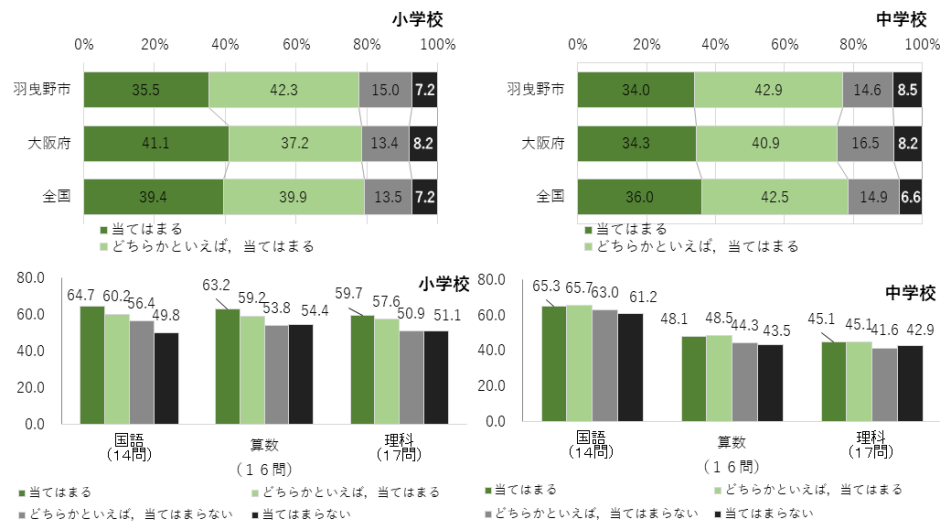
中学校では9割程度の生徒が同じくらいの時刻に起きることができている。小学校では8割強の児童が毎日同じくらいの時刻に起きている。小学生では、同じくらいの時刻に起きているほど教科の正答率が高くなっているが、中学校では「あまりしていない」の教科の正答率が高い傾向もみられる。



(7) 自分には、よいところがあると思いますか

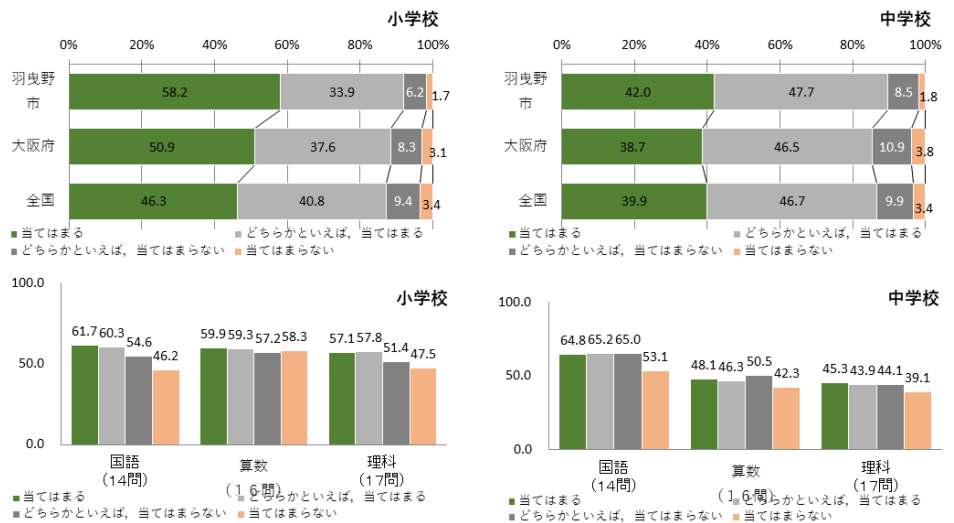
自分には良いところがあると感じている児童生徒は8割程度になる。

自分自身を肯定的にとらえているほど、教科の正答率の高い傾向がある。



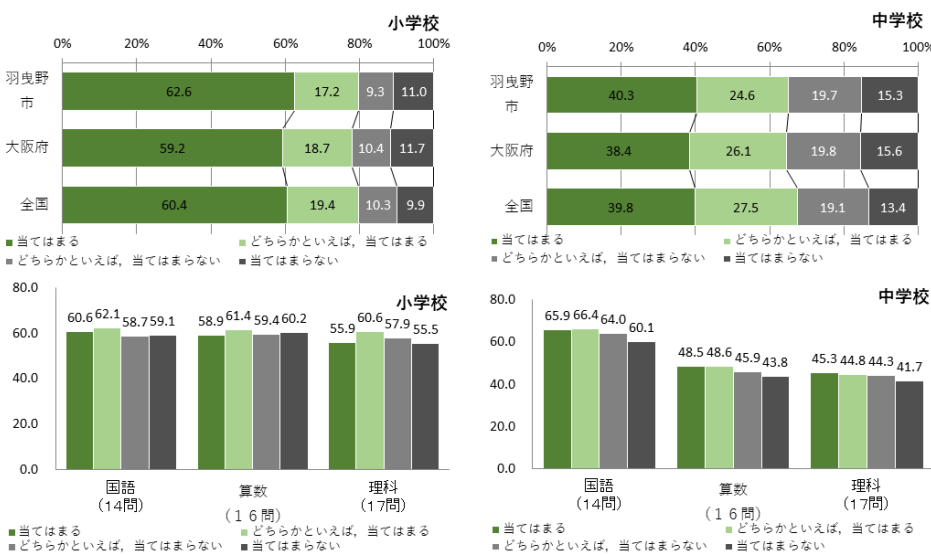
(8) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

先生は、よいところを認めてくれていると思う児童生徒が本市は多く、教職員との関係性は良い傾向にある。「当てはまらない」と思っているほど、教科の正答率は低くなっていることから、教員は、子どもたちの良さを伸ばしていく指導を継続する必要がある。



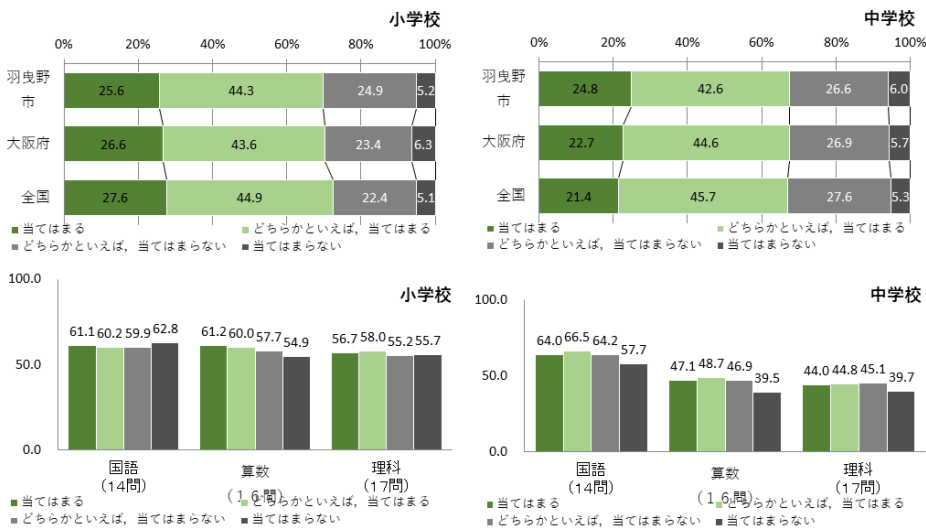
(9) 将来の夢や目標を持っていますか

将来の夢や目標を持てている小学生が多い。将来の夢や目標を持っている児童生徒の教科の正答率の高い傾向がある。



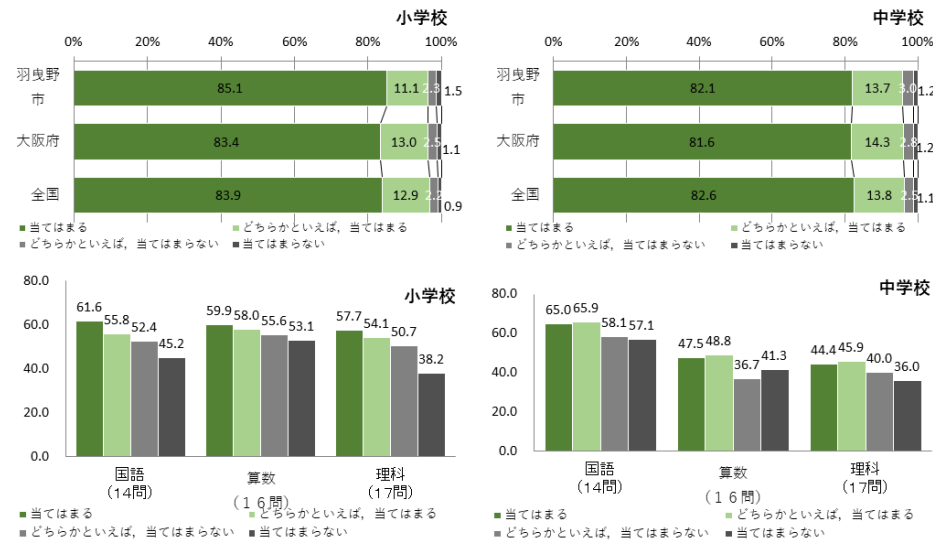
(11) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると肯定的な回答をしている児童生徒では、算数・数学の正答率が高い傾向がある。



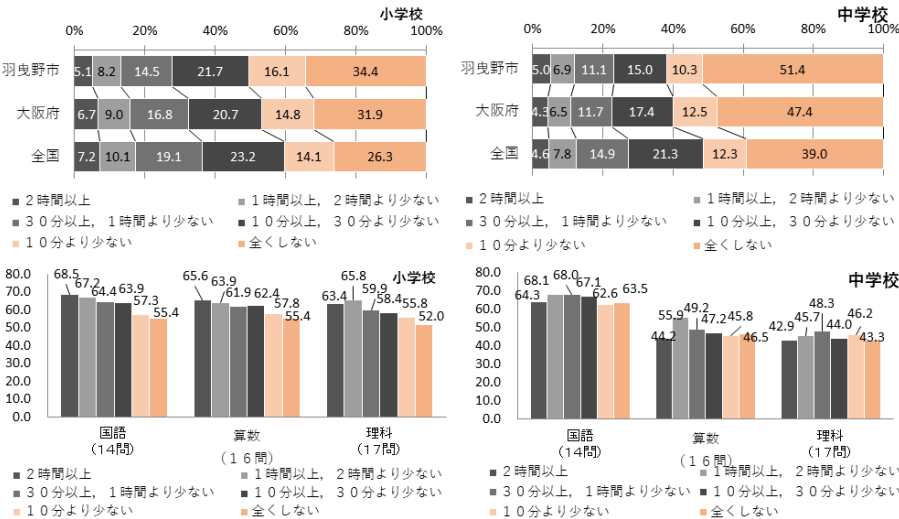
(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒は9割を超える。
いじめはいけないことだと思うほど、教科の正答率が高い傾向がある。



(23) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

学校の授業時間以外に1日当たりの読書時間では、「全くしない」児童生徒の割合が依然高い。小学校では読書の時間と教科の正答率は比例関係になっている。小学校段階までに本に触れる機会が大切であることがわかる。



(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

小中学校ともに、テレビゲームの時間が2時間以上の割合が、全校・府平均と比べて高くなっている。テレビゲームを「全くしない」また、2時間以下の使用では、教科の正答率は高い傾向にある。

